

発行:在日韓国民主統一連合（韓統連）

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284

メール chuo@korea-htr.org ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方はchuo@korea-htr.orgまでご連絡ください。（メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください）

정세 情勢

●NATO首脳会議「戦略概念」改定、中口は強く反発

韓米日首脳会談「3カ国軍事協力」確認、8月下旬から韓米合同軍事演習



NATO首脳会談期間中に開催された韓米日首脳会談。テーブル左から尹錫悦大統領、バイデン大統領、岸田文雄首相

スペインのマドリードで開催された北大西洋条約機構（NATO）首脳会議は6月29日、向こう10年間の行動指針を示す「戦略概念」を12年ぶりに改定し、ロシアを安全保障の「最大で直接的な脅威」と位置付けた。ロシアに対抗するため、東欧を中心にNATOの防衛態勢を長期にわたって大幅に増強する軍拡計画を確認した。戦略概念で具体的な国を「脅威」と位置付けるのは冷戦後初めてで、大きな転換となる。

戦略概念としては、中国に初めて言及。「中国の野心や威圧的な政策はNATOの利益や安保、価値観への挑戦」と指摘して、対抗する姿勢を明確化。またロシアと中国の戦略的な連携の深まりが、「ルールに基づく国際秩序をむしろむしばんでいる」と警戒感をあらわにした。

またインド太平洋の情勢が「欧州・大西洋の安全保障に直接影響する」として、首脳会議に招いた韓国、日本、ニュージーランド、オーストラリアのパートナー国との連携を確認。4カ国による首脳会談と韓米日3カ国首脳会談も開かれた。

およそ5年ぶりの3カ国首脳会談では、核・ミサイル開発を進める朝鮮への対応についての議論が主題となった一方、対中国を念頭に太平洋地域における3カ国の軍備強化を確認した。尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領は、朝鮮の核・ミサ

イルの高度化に対する3カ国の協力の重要性を指摘。大統領府の発表によると、尹大統領は朝鮮の挑発には強力に対応していくと表明した一方、朝鮮を対話のテーブルに戻すための協力を呼びかける意向を示した。バイデン大統領は「われわれ3カ国の協力は、朝鮮半島の完全な非核化と自由で開かれたインド太平洋の実現という共通の目標の達成に向けて不可欠だ」と述べ、太平洋地域における対中国軍備網の連携を強調した。岸田首相は、核実験を含めた朝鮮の挑発行為の可能性への懸念に言及した上で、「日米同盟、米韓同盟の抑止力を高めることを含め日米韓の連携強化は不可欠だ」と主張した。

NATOの新戦略概念にロシアと中国は当然、強く反発。また、朝鮮外務省は11日「米国は今回のNATO首脳会議を通じて、欧州の『軍事化』とアジア太平洋地域の『NATO化』を実現し、中口を同時に抑制し包囲しようとしており、米日南（韓国）3カ国軍事同盟をその実現のための重要な手段としている」と非難した。さらに、米国の核戦略資産（核兵器搭載爆撃機、水中発射核ミサイル・SLBM搭載潜水艦など）が動員された韓米合同軍事演習が実施される場合、朝鮮の対応措置を誘発して「核戦争」につながる可能性がある」と警告し、「造成されている情勢は国家防衛力強化の切迫性をさらに高めている」と主張した。

韓米は8月22日から9月1日まで大規模な合同軍事演習を行う予定。コンピューターシミュレーション方式の合同指揮所訓練（CCPT）のほか、野外での実動訓練の実施も検討しているとされる。

NATOの新戦略概念はロシアを「最大で直接的な脅威」と位置付け、中国がNATOの利益や安保、価値観に挑戦していると指摘した。また中

口の戦略的な連携の深まりに警戒感も示した。NATOは以後、中国をけん制するために、欧州をこえてインド太平洋まで活動の範囲を広げ、それは米国がインド太平洋戦略の下で主導する対中国包囲網と重なりながら結合することになる。

今回のNATO首脳会議に招請された韓国、日本、オーストラリア、ニュージーランドはインド太平洋地域のパートナー国として、NATOとの協力を積極的に求められ応じる関係が強化されていく。

韓米日首脳会談では、米国のインド太平洋戦略の下、対朝鮮に加えて対中国も視野に入れた韓米日3カ国軍事協力の必要性が確認された。同盟関係にある韓米、日米の軍事協力を進めながら、いずれは実質的な韓米日3カ国軍事「同盟」を構築しようとする意図だ。当然、その前提として韓日

関係の「改善」が求められ、「改善」に向けた動きがすでに始まっている。

5月に開催された韓米首脳会談で、両首脳は韓米同盟を地域と分野をこえた「グローバル包括的戦略同盟」へと格上げすることに合意、韓国はバイデン政権の「新冷戦」覇権戦略の重要なピースとして確実にはめ込まれた。NATO首脳会議を経て8月下旬から強行されようとする韓米合同軍事演習は、朝鮮だけでなく中口をも想定し、そして韓米日軍事協力をも意識したものとなるだろう。

「反米自主」と「反戦平和」の旗をさらに高く掲げなければならない情勢を迎えている。朝鮮半島にとどまらない軍事緊張を引き起こす韓米合同軍事演習の中止を強く求める。

●就任2カ月、尹大統領の支持率30%台に急落…略式会見、中止発表・翌日再開！？



記者の質問にこたえる尹錫悦大統領（写真奥）

就任から2カ月を迎えた尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領。国政遂行についての世論調査結果で肯定評価（支持）が30%台に急落、否定評価（不支持）は50%中後半台へとかけあがり、一部の調査ではついに60%をこえた。

7月7日発表の世論調査会社・韓国ギャラップが肯定評価30.0%、否定評価49.0%と発表したのに続いて、11日発表のリアルメーターでは肯定評価37.0%、否定評価57.0%。政党支持率にも変化があらわれ、「共に民主党」41.8%、「国民の力」40.9%と共に民主党が逆転した。韓国社会世論調査研究所が同日発表した結果では、肯定評価が前週より8.3%下がり34.5%、否定評価が8.9%上がり60.8%となった。

各世論調査結果であらわれた否定評価の理由としては、「側近中心の偏重人事（人事破綻）」「経済・民生の解決策が不足」「独善的な政治懸案の処理」などが挙げられている。

こうした中、大統領室は11日、尹大統領が「国民との距離を近づける」として、出勤時に続けてきた略式会見（いわゆる「ぶら下がり取

材」）を「コロナウイルス感染拡大によりしばらく中止する」と発表、合わせて「大統領の公開行事でのオープン取材もできるだけ少なくする予定」であり、「大統領のブリーフィングもできるだけ書面中心で行う」と明らかにした。

これに対して、共に民主党のシン・ヒョニョン報道担当は「国政遂行評価が30%台に過ぎないと発表された日に、略式会見中止発表とは偶然なのか」と皮肉り、「周辺に感染者が発生したからといって無条件にシャットダウンするのは、（尹大統領が主張する）科学防疫ではない」と批判した。

大統領室の発表にもかかわらず、尹大統領は翌12日、出勤時の略式会見を従来（記者団から1～2メートル）よりさらに離れる形式で行った。大統領室の関係者は当惑を隠せず、距離をとるよう記者団に要請した（「民衆の声」）。

略式会見中止を中心とする大統領室の発表は、尹大統領の言動が物議をかもすことが多く、特に出勤時の会見が政権にとって負担となっており、そのために略式会見を中止し、他の会見も制限したり書式に代えるなどの措置で支持率の下落を止めようとの計算から出たものだ。大統領室の思惑とは関係なく会見を続けた尹大統領。準備不足の面があるのは事実だが、会見そのものを否定する声が多いわけではない。国政遂行がきちんとできていないと厳しく指摘されていることと、尹大統領がその重大な事実を真剣に受け止めていないことが問題なのだ。

●記事紹介 民主労総65000人の組合員、反労働の尹錫悦政権に向け「闘争宣布」 全国労働者大会 ソウルと巨済市で同時開催

「労働と世界」（民主労総機関紙）7月2日
「災難の中で積み上げた財閥の蔵を開いて再分配」「富裕層から税金を、民衆に生存権を」



労働者大会に結集した組合員たち

民主労総6万組合員がソウルに集まり、反労働政策を繰り広げる尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権に向け闘争を宣布した。民主労総全国労働者大会が2日午後、ソウル市庁前（※ソウル広場）で開かれた。これは2016年の朴槿恵（パク・クネ）政権退陣デモ以後では最大規模。

同時に巨済島（※慶尚南道にある島）で開かれた嶺南（※慶尚南北道を指す）地域労働者大会では、金属労組組合員をはじめ5000余人が集まり、大宇造船下請け労働者の全面ストを支持すると宣言した。

この日、産別労組は事前集会を開催後、午後3時にソウル広場を中心に集まった。尹錫悦政権の反労働親財閥政策を糾弾し労働改悪に立ち向かい、これを阻止するための決意と宣布で行事は進行した。民主労総は△物価暴騰に対する民生対策△労働改悪阻止△社会公共性に対する国家責任を強化△非正規職撤廃を大会の主要要求に掲げた。

ヤン・ギョンス民主労総委員長は舞台上上がり「『もっと働け、与える分だけ受け取れ、労働組合はだめだ、命をかける』と、尹政権はわれわれに奴隷として生きるという。現在われわれはその

ようには生きられない、堂々たる主人公として生きようと、ここに集まった」と始め、「月給以外はすべて上がった世の中、働くほどに赤字が出る世の中、借りるとばくだいな利子が生じ、買い物かごにはため息ばかりがたまる世の中。政府は、そしてわれわれを無視した国家は財閥、大企業と一体だ。彼らの鎖を解き自由にしたら、その貪欲な歯は労働者を食いちぎるだろう」と憂慮した。

「非正規職が1000万人になるが、尹錫悦大統領はただの一言もなく、なんの対策もない。民営化や民間委託の名の下、非正規職の国を造り、唯一の武器である労働組合さえ奪おうというのだ。民生は破綻しているが、政府は手つかずの状態だ」と憤った。

「財閥と富裕層の側に立ち、労働者と民衆を無視する尹錫悦政権に、われわれは嚴重に警告する。富裕層から税金を取り、労働者・民衆の生存権を保障せよと。こうした警告が積み重なれば、次は政権の退場だ」と述べた。

ヤン委員長は現在、闘争中の事業場に言及しながら団結を強調した。「われわれの団結と連帯が希望である。アジアナKO、クーポン、世宗ホテル、コーウェイ、韓国サンケン、全国の労働者が堂々と闘っている。ソウルから巨済からわれわれは結集した」と述べた。

続いて、ヒョン・ジョンヒ公共運輸労組委員長とサービス連盟のカン・ギョヒョク委員長が決意表明、ハ・ウォノ全農議長が連帯あいさつ。

大会を終えた参加者は世宗大路を中心にソウル駅まで3方向に行進を開始し、漢江大路に沿って大統領室まで行進し、建設産業連盟のチャン・オッキ委員長の決意表明を最後に大会を終えた。

※原文と写真は下記を参照してください

<http://worknworld.kctu.org/news/articleView.html?idxno=500344>

활동보고 活動報告

●韓統連三重本部・韓青三重県本部が耳塚、ウトロをフィールドワーク



ウトロ放火事件の現場前で説明を受ける参加者たち

韓統連三重本部は7月3日、韓青三重県本部と合同で「京都紀行・耳塚&ウトロフィールドワーク」を開催した。京都到着後、耳塚前で「なぜここに耳塚があるのか」「日本は耳塚をどのように利用してきたのか」などを学習。耳塚の隣にある「交流館 カササギの家（교류관 까치네집）」で壁一面に描かれた在日朝鮮人画家・呉炳学先生の作品を見ながら昼食をとった。

宇治市にあるウトロ平和祈念館へ。駐車場は満車で関心の高さが伺えた。当時の資料や展示物な

ど（韓民統による映画「オモニ」の実物ポスターも展示）館内展示を観覧後、館内職員の案内でウトロ地区を見学し、ウトロがいかに差別を受けてきた地域であったのかの説明を受けた。特に先日起こった放火事件現場は焼けあとが生々しく、ヘイトクライムの現実を突きつけられた。職員からは「祈念館という形で後世に伝える準備は整いましたので、これをいかに継承していくのかが今後

の課題です」と説明を受けた。

四日市に戻り、夕食を兼ねた感想会を開催。参加者からは「日本における差別、ヘイトクライムの増長をいかに止めるのか」「青年らと共に学ぶ機会を増やし、在日の歴史を継承していこう」などの感想が述べられた。

次回フィールドワークは秋に開催予定。

●神戸で映画「私はチョソンサラムです」上映会を開催・・・200人が参加し盛況



トークショーで発言する金昌五副代表委員

映画「私はチョソンサラムです」上映会&トークショーが7月9日、神戸市中央区のけんみんホールで開催された。主催は韓統連兵庫本部、韓青兵庫本部と日本市民が共同で構成する実行委員会。土曜日午後の時間でありながら、同胞・日本市民約200人が鑑賞におとずれた。

映画では在日朝鮮人に対するヘイトクライムの実態や、1世から4世・5世と続く在日朝鮮人の姿を描き出し、その歴史の過程で生まれた在日韓国人「政治犯」の思いや朝鮮人と日本人の間で呻吟する在日朝鮮人青年の生の声が描かれた。

上映後、映画出演者の一人である韓統連大阪本部の金昌五（キム・チャンオ）副代表委員と兵庫朝鮮学園の金錫孝（キム・ソッキョ）理事長が登壇し、韓青兵庫の朴偕泰（パク・ヘテ）氏の司会のもとトークショーを進行。韓国での劇場公演に参加した時のエピソードや、在日朝鮮人子弟に対する民族教育の重要性が語られた。山村ちづえ実行委員長が閉会あいさつ。朝鮮民謡を歌いながら登壇し「在日朝鮮人を主題にした映画でありながら、日本人こそが、この映画から学ぶべきだ」と力強く語った。

●韓国サンケン労組が労使合意を勝ち取り闘争終結・・・723日目の勝利

韓国サンケン労組は7月5日、組合員たちの死力を尽くしての事務所占拠、ハンスト闘争の末、労使合意を勝ち取り闘争を終結した。馬山での座り込みから723日目の勝利だった。

闘争勝利を受けて金属労組慶南支部韓国サンケン支会が発表した立場文を紹介する。

韓国サンケン労働者、724日間の闘いを終結 金属労組慶南支部韓国サンケン支会の立場文



これまで全国の同志が送ってくれた熱い連帯と応援、献身的な実践と闘いに感謝します。2020年7月に立ち上がった韓国サンケンの闘いが2年間の闘いの末に、私たちが目標としたことを全て成し遂げることはできなかったものの、国内外のたくさんの連帯の力で終結することになりました。

韓国サンケン闘争は1996年に韓国労総から民主労総への所属変更を起点として、日本資本に抗して26年以上続いた労働者の闘いです。世界で売上高第8位を占めるグローバル資本である

日本のサンケン電気と財閥グループ、大資本を相手にしなければならない大きな闘いでした。

振り返ってみると、12人の組合員でこの闘いを決意して始めたことは容易ではない決定でした。韓国サンケン闘争がここまで続くことができたのは、地域の連帯と韓日の国際連帯を通じて新たな闘いの空間を作り続けてきたからです。地域は、対策委、闘争事業場共同闘争委を立ち上げて闘争事業場と地域が共

に連帯と闘いを作り出していきました。

日本の国際連帯は自発的な市民の会をはじめ、サンケン電気資本の営業所がある日本の各地でサンケン電気を打撃する闘いを生み出しました。日本の労働者・民衆・市民社会の連帯組織の立ち上げと2年近い連帯闘争は、目を見張るばかりの人間の尊厳と国際的な同志愛を見せてくれました。

700日を超える闘争の間に、私たちが目標にしていた外国人投資誘致法改正案も国会に上程されました。地域社会を越えて全国に外資系企業の問題点を提起し、国会議員から地方自治体議員、市長、道知事まで関わるようにしました。労働部まで乗り出して日本資本のサンケン電気と日本政府に抗議し、たくさんのマスコミが外資系企業の問題点を報道しました。

韓国サンケン支会組合員の闘争目標を完全に達成することはできなかったとはいえ、私たちの民主労組の旗はまだ折れてはいません。日本をバックにした強大な資本と12人の組合員が競り合って闘い、決して勝利とは言えずとも敗北とは絶対に言うことのできない高貴な闘いの成果を残しました。

いまやまた新たな出発点に立つことになりました。700日以上長い時間をかけて育てた国際連帯をどのように継承し発展させるか模索しています。韓日の国際連帯運動の歴史にこれまで見なかった事例を作った今回の闘いを踏まえ、韓国サンケン労働者は今後も韓日の労働者・民衆の連帯をさらに一層強化する闘いを準備していこうと思います。

長期間の連帯と支援を惜しまずに送って下さった国内外の同志に金属労組慶南支部韓国サンケン支会の組合員全員の心の一つにして感謝申し上げます。地域から、全国から、日本から、闘いの現場から同志たちが送ってくださった連帯の力によって厳しい闘いを締めくくることがになりました。

闘いの現場でまたお目にかかります。ありがとうございます。闘争！

행사예정 行事予定

7月

韓統連セミナー(大阪)

日時：7月17日(日)午後2時～ 場所：KCC会館 内容：シリーズ「ウリ現代史セミナー2022ー過去史を見つめなおし、その正しい清算のためにー」第1回「解放と分断」～新祖国建設に向かう怒涛の時代 主催：韓統連大阪本部 連絡先：06-6711-6377

朝鮮戦争・休戦協定締結69周年 東アジアの恒久平和の実現を目指す7・27大阪集会

日時：7月27日(水)午後6時受付、6時30分開会 場所：PLP会館 内容：講演「尹錫悦政権下における韓日連帯運動の課題」講師：韓忠穆(ハン・チュンモク)韓国進歩連帯常任代表 主催：日韓平和連帯 連絡先：06-6583-5549(全日本建設運輸連帯労働組合近畿地方本部)

第54回韓青全国夏期講習会

日時：7月30日(土)～31日(日) 場所：休暇村 近江八幡 内容：グループ学習、レクリエーション、BBQなど 参加費：一般12,000円、盟員・学生10,000円 主催：在日韓国青年同盟中央本部 連絡先：03-4400-5331

8月

8・6ヒロシマ平和へのつどい2022

日時：8月5日(金)17時開場 17時30分開場 場所：広島市まちづくり市民交流プラザ北棟5階研修室AB 内容：【第1部】問題提起(西岡由紀夫さん、尹康彦(ユン・ガンオン)韓統連広島本部副代表委員、武藤類子さん、清水早子さん)【第2部】記念講演「『軍事力による安全保障ジレンマ』に陥いるな！ーウクライナ危機に乗じた軍拡は許されない」(講師ー湯浅一郎 ピースデポ代表) 主催：同実行委員会 連絡先：090-4740-4608